

り、住民に内容を周知している自治体はほとんどありません。それでは意味がないと考えます。住民にまちの現状をさらけ出して、そこで意見を伺っていくほうがよほどいい改革になると考えています。

それに政府は、そんなに一つ一つの自治体のことを考えてくれているとは思いません。自分たちの地域のことを真剣に考えるのは自分たちだけだということをおぼろげに感じています。そう思うことが自立への第一歩だと考えます。

#### 財政運営の見直しを

自治体が自立していくためには、財政運営のすべての要素を一つ一つ丁寧に点検すること、これが一番だと考えています。

鳥取県では、県の財政状況をすべて公開しています。たとえば、補正予算の各部書からの要求内容、査定結果、その理由など、すべて県のホームページ上に掲載しています。そして、公共事業についても、一件一件、必要性を検証しながら予算を組んでいます。それが本当に必要な事業なの



自治体が自立していくための手法を語る

か、納税者としての視点、また持続の可能性などについて内容を吟味し、不必要なものは排除、また、経費の面ではできるだけコストが低く、かつ良質のものを選ぶようにしています。

事業は事業費だけで行えるものはありません。事業を行う人の人件費も当然かかってくる。県では、そういう

た事業費プラス人件費を考慮した「トータルコスト予算」を採用し、真の事業コストの把握に取り組んでいます。

給与体系や労使関係の見直しも必要です。県では、ヤミ給ではないか、納税者の納得が得られるものになっているかなどを考え、給与制度も見直しました。おそらく全国一透明な給与制度になっている

はずです。また、自治体が行っているすべての契約を点検してみてください。安易な随意契約によつていないか、競争原理が働いているかなどをぜひ。

県庁のコピー機のリース料を例に挙げますと、従来はコピー機1台ずつを1年契約でリース契約していたものをすべて一括して3年契約にしたところ、7割もリース料を削減することができました。現在は、電気料金の削減について勉強しているところです。

#### 財政に厳しいチェックを

そうして自治体が編成した予算について、議会には徹底した審議をお願いしたいと思います。審議されたうえで不要となれば、予算の減額修正も大いにあってよいと思っています。議員の中には、「町長と議会は車の両輪だから、町が組んだ予算を変更するのは忍びない」とか、町長でも「議会が予算を変更するなどとはこげんにかかわる」と思われる人もあるでしょうが、無駄なものは削除することはしてほしいと思います。そう

でなければ議会なんていらないうことになってしまいますから。

また、監査委員にも徹底して監査していただきたい。おかしいと思う部分はどんどん指摘していただくことで、次の予算の改善・スリム化につながります。

自治体の使命を点検し  
質の高い行政運営を目指す

自治体においては、それぞれの自治体のミッション（使命）を点検・再整理して欲しいです。誰のために、何の目的で仕事をしているのか、一つ一つの仕事の真の目的を点検してみてください。

例えば、過疎バス補助の目的は、バスを走らせることではなく、交通弱者の交通手段の確保であるはずで

す。そして、小さいながらも質の高い自治体を目指していただきたい。小さい町村だからと尊厳と誇りを失わず、自立を目指してがんばっていただきたいと思っています。

パネルディスカッション内容（要旨）

景山町長 今年度、日野町の当初予算では、明らかに歳出をまかなう歳入が確保できず、赤字予算を組まざるを得ませんでした。これには、日野町固有の負の財産といった問題と、年々地方交付税交付金が減少していることがありますが、これはすべての自治体に共通することだと思います。

今回、厳しい財政状況の中、合併せず単独でそれぞれがんばっていらっしゃるパネリスト（討論者）の皆さんに、まずは自己紹介を兼ねて、状況をお聞かせ頂きたい。

筒井良盛氏（奈良県高取町長）  
高取町は、奈良盆地の南端

に位置し、明日香村に隣接しています。まちの主産業は配置売薬業と農業。平成14年度から町財政は赤字となっており、今後さらに膨らんでいく可能性ががあります。その中で、文化のあるまちを残していくと、皆さんに辛抱していただきなながらがんばっています。

樋口忠三氏（島根県川本町長）  
川本町と、ここ日野町は人口や財政規模など、非常によく似ています。川本町は、「音楽のまち」のシンボルとして、客席数1000席のホールと、隣接してプール、宿泊施設、レストランなどを建設、数10億円の投資をしたことが、現在まちの大きな負担になっています。こうした今あるものを、住民の皆さん

### ■ パネルディスカッション

## 「小規模町村の破たん回避と地方分権改革について」

片山知事の基調講演を受け、日野町と同じく財政危機を迎えている、県内外の5つの町村長によるパネルディスカッション（公開討論）が行われ、景山町長がコーディネーター（進行役）、片山知事も助言者として参加、破たん回避の手法などについて熱い議論が交わされました。

町村の概要データは平成17年度当初のもの。用語については用語解説をご覧ください。

### ■ パネリスト 奈良県高取町長 筒井良盛氏



【高取町の概要】面積：25.77 k<sup>2</sup>  
人口：7,989人、財政力指数：0.33<sub>県</sub>  
標準財政規模：20億2,300万円  
経常収支比率：99.9<sub>県</sub>  
起債制限比率：14.0<sub>県</sub>  
人口1人あたり地方債現在高：68万5千円

にどう使っていたかを考えているところです。

道上正寿氏（岡山県西粟倉村長）

西粟倉村は、鳥取県、岡山県に隣接している人口1700人の小さな村です。私が村長になった7年前と比べて、交付税が4億7千万円ほど減ってきています。そんな中で村長の報酬を平成元年ベースに戻したり、助役、収入役を置かないなどという組織の見直しを行っています。

小林昌司氏（鳥取県若桜町長）

若桜町は、国勢調査人口が5年前と比べて約630人減少し、また、高齢化率も36<sub>県</sub>と、過疎高齢化が進んでいます。平成13年に自立促進計画を策定、まちづくりや行政改革に取り組んだ結果、平成17

年度には、人件費など合わせて2億7千万円ほどを減額することができました。

吉田秀光氏（鳥取県三朝町長）

私は今、日本中がもう限界に来ているのではないかと思っています。また、こうした会が全国に波及していかなければならないという思いで、今回参加しました。知事の講



■ パネリスト 島根県川本町長

### 樋口忠三氏

【川本町の概要】面積：106.39 k<sup>2</sup>  
人口：4,342人、財政力指数：0.16<sub>県</sub>  
標準財政規模：24億5,000万円  
経常収支比率：96.7<sub>県</sub>  
起債制限比率：14.3<sub>県</sub>  
人口1人あたり地方債現在高：147万2千円

#### 用語解説（その1）

財政力指数 = 基準財政収入額を基準財政需要額で割った数値の3か年平均。この数値が1を下回る自治体には普通交付税が交付されます。

標準財政規模 = 自治体の標準的な状態で通常収入が見込まれる経常的一般財源の規模を示すもので、標準税収入額などに普通交付税を加算した額。

経常収支比率 = 税などの一般財源を人件費、公債費など経常的に支出する経費にどれくらい充てているかで、財政の健全性を判断する数値。この比率が高くなるほど、投資的な経費に充てる財源が少なくなり、財政運営が厳しくなります。